

(2) 1中1小隣接型 秦野市

北中学校
北小学校
(北幼稚園)

ア 教育目標

(ア) 教育目標（北小中学校小中一貫教育目標）

「心豊かに たくましく 確かな学力を身につけた子どもの育成」

幼小中一貫教育 めざす子ども像 ～11年間の育ちの姿～

- ・目標を立て、自ら進んで学習に取り組む子ども
- ・相手を理解し、コミュニケーション力を身につけた子ども
- ・感謝の気持ちを持ち、地域と共に育つ子ども

(イ) 教育目標の背景（現状分析）

秦野市では平成23年度より市内9中学校区で幼小中一貫教育を展開してきています。その取り組みの中では、幼小中の11年間を見通し、それぞれの発達段階をふまえた連続した学びと育ちを保証するために、(幼)小中で共通の教育目標を設定しており、学習指導と生徒(児童)指導が両輪となり、知・徳・体をバランスよく育成することをめざしています。北中学校区の子どもたちは、人懐っこく、素直な子どもたちで、学力の向上を目標の一つとしています。そこで、確かな学力を身につけるために、授業改善に取り組み、「わかる授業」「充実感のある楽しい授業」を創り上げていく必要があることから、学習活動の連続性に視点を置きながら、授業参観や授業研究に積極的に取り組んでいます。

イ 推進組織

(ア) 中学校区組織

〔幼小中一貫教育連絡会〕

本市では、各中学校区における幼小中一貫教育の取組内容を確認するために、中学校区ごとに連絡会を年2回以上開催し、基本方針や年間の活動計画、合同研修会等について連絡調整を図っています。

北中学校区の連絡会の話し合いの中では、北の子どもたちのよさをより伸ばしていくため、生活指導や学習指導において、共通理解を進め、同じ方向をめざして北の子どもたちを育てていくことが必要であると確認されました。しかし、幼小中の行事や日課等の違いから、交流の実施や研修会、連絡会の日程調整が難しいのが現状で、それを乗り越えるために、次年度の年間計画を作成する早い段階から情報交

換をし、計画立案を連携していくなどの工夫をしています。北中学校区では5月、9月、2月に開催し、年間計画の作成や課題の整理等を行い、それを受けた形で6月、10月、1月の担当者会で、研究の推進とともに実務的な打合せを行った上で、3月に、年間行事調整会議を開催し、一貫教育の推進を図っています。

〔子どもを育む中学校区懇談会〕

児童・生徒の健全育成のためには、地域において「異年齢交流」「異世代間交流」を積極的に進め、子どもたちに豊かで多彩な体験活動の機会を与え、大人や多様な年齢層の人々との交流を通して社会性や道徳観・正義感を身につけることができるようにしていく必要があります。同時に、子どもたちにとって安心安全な地域づくりも推進していく必要があります。そこで、秦野市教育委員会から各中学校区に子どもを育む中学校区懇談会事業を委託され、事務局連絡会を開催し、情報交換や、各中学校区の特色を生かした活動を企画するなど、地域資源を生かした教育力の向上を図っています。

(イ) 教育委員会組織

〔幼小中一貫教育推進検討協議会〕

平成22年に、市の幼小中一貫教育の方向性を検討するため、学識者や保護者代表等で組織する秦野市幼小中一貫教育検討推進委員会として設置され、平成26年に要綱改正により協議会となりました。

〔教育研究所幼小中一貫教育広報部会〕

全市的な展開から5年が過ぎた幼小中一貫教育について、その成果を検証するとともに、秦野の特色ある教育として広く周知するために平成28年度リーフレット「みんなでそだてるはだのっ子」を作成し、配付しました。

課題である保護者や地域の方へ周知するために、教育研究所の部会を立ち上げ、教職員と共に作成しました。

子どもの生きる力を育む ～学びと育ちの連続性をいかに～

秦野市の幼小中一貫教育

中学校

学びの連続性
教育内容の系統性を重視し、連続した学習の場を確保することによる学びの定着及び向上を促す

達成構成の連続性
それぞれの学習過程に即し、段階的に深めることによる一貫した学習環境の確保

小学校

育ちの連続性
子ども一人ひとりの個性や成長のペースを尊重し、個性を伸ばすことによる一貫した学習環境の確保

達成構成の連続性
それぞれの学習過程に即し、段階的に深めることによる一貫した学習環境の確保

幼稚園
こども園

育ちの連続性
子ども一人ひとりの個性や成長のペースを尊重し、個性を伸ばすことによる一貫した学習環境の確保

達成構成の連続性
それぞれの学習過程に即し、段階的に深めることによる一貫した学習環境の確保

〇 一貫教育とは何ですか。
 A: 幼稚園から小学校・中学校、生徒の円滑な成長を促すために、段階で一貫した教育のことです。
 〇 秦野市では、いつから幼小中一貫教育を行っていますか。
 A: 平成27年度から段階的に、平成29年度より全ての児童が対象として実施しています。
 〇 幼児教育が充実していることがありませんか。
 A: 幼稚園やこども園の充実を図りつつ、幼児教育の充実を図り、小学校の幼児教育の充実を図っています。

平成28年度 幼小中一貫教育アンケート
結果から見ていくこと

なめらかな接続

| | | |
|--------------------------|------|--------|
| 入学前の体験、見学は不安解消に役立つ(保護者) | そう思う | 少しそう思う |
| | 40% | 40% |
| 入学前に中学について知っていた方がよい(中学生) | そう思う | 少しそう思う |
| | 39% | 33% |

児童生徒だけでなく保護者においても幼小中連携が得られる接続に効果があることを感じている。

学習面での課題

| | | |
|-----------------------------|-------|-----|
| 小・中学校でのそれぞれの学習課題をいかに克服していくか | 小・中学校 | 中学生 |
| | 40% | 30% |

小・中学校でのそれぞれの学習課題をいかに克服していくか、一貫した連続的な教育を行っていかねばならないと考える。

異年齢交流

| | | |
|-------------|-----|-----|
| 小学校と中学校との交流 | 小学校 | 中学校 |
| | 40% | 30% |

異年齢交流が子ども達の成長に役立つと期待している。

秦野市幼小中一貫教育

みんなで
そだてる
はだのっ子



秦野市教育委員会
平成29年3月

各中学校区における具体的な実践例です。様々な領域の具体的な活動を紹介しております。

秦野市幼小中一貫教育各中学校区の実践例

西中学校区(3園3小1中) 西・ほりがわ・上総学園
園・郡川・上小学
貫立学校

「ピアサポートでお互いに成長」



中学生が各小学校を訪問し、8年生とピアサポート活動(中学生がリーダーとなり、エンカウンター等を取り入れた活動)を行っています。小学生にとっては進学への意識としての不安の解消、中学生にとってはリーダーとしての資質向上が期待されます。

北中学校区(1園1小1中) 北勢学園
北小学校
北中学校

「幼小中合同の保育・授業研究会」



幼小中一貫して、「数量・図形等の感覚遊び、算数、数学」の保育・授業研究を行い、年4回、互いに参観し、意見交換を行っています。幼小中の教職員が協力して、子どもたちが学び合い、思考力や表現力を高めていけるような保育や授業をめざしています。

真中学校区(1園1小1中) 真知学園
真小学校
真中学校

「田原ふるさと公園で笑顔の交流」



中学校教諭による出前授業や合同授業研究などに取り組み、「伝えあい学びあう子ども」を育てています。七夕の思い出では、幼小中の子どもたちと保護者、地域の方が交流を深めるなど体験を通して子どもを育むことを大切にしています。

浅沢中学校区(1園1小1中) しづまわこども園
浅沢小学校
浅沢中学校

「里地・里山での異年齢交流」



年長児と小学校4、5年生と中学校2年生がそれぞれ里地・里山での異年齢交流を行っています。活動を通じて上級生は相手を楽しめることで自己肯定感を高め、下級生は上級生に対する憧れの気持ちも、差級に対する不安を軽減するなど成果が見られます。

本町中学校区(2園2小1中) 本町幼稚園
すまひろこども園
本町・元浜小学校
本町中学校

「わくわくらんち」



小学校の図書室で児童館の先生が本町幼稚園に食の話をしています。その後は小学校の給食を「いただきます!」園児が早く小学校生活や給食に慣れ、同時に食に対する興味関心を高めるねらいで年3回行っているのが「わくわくらんち」です。

大根中学校区(2園2小1中) 大根幼稚園
ひらたこども園
大根・箕原小学校
大根中学校

「地域・園小中一体あいさつ運動」



あいさつ運動月間を設け、大根中学校生徒会が中心となり、地域や幼稚園・こども園・小学校・中学校が連携して合同あいさつ運動を3~4日間実施しています。子どもたちの学びや育ちの連続性を見直し、子どもたちの健全な成長を見守っています。

南中学校区(2園1小1中) 南島学園
みどりこども園
南小学校
南中学校

「幼小中で連携する『主体的な学び』」



講師をお迎えし、アクティブ・ラーニングを踏まえた授業改善を学ぶ合同研修会を開催しました。【願って/考え/つなげる】保育・授業等について語り合い、「主体的な学び」をテーマとして取り組んでいます。

南が丘中学校区(1園1小1中) みなみが丘幼稚園
南が丘小学校
南が丘中学校

「あこがれの中学校生活に向けて」



中学校生活での楽しみの一つに部活動があります。そこで中学校入前に児童の希望する部活動の体験を実施しています。優しく教えてくれる先輩との交流を通して、中学校に行くことが楽しみになったという声が多く聞かれています。

鶴巻中学校区(1園1小1中) つるまきこども園
鶴巻小学校
鶴巻中学校

「校種を越えた学習参観」



園・小・中、各一泊ずつ全職員を対象に保育・授業を公開しています。参観後は分科会を持ち、研究討議します。職員が校種を越えて学習や生活の様子を見合うことで、相互理解を深めると共にスムーズな連携を図っています。

□ は幼稚園・こども園・小学校・中学校が連携しているところです。

ウ 北中学校区における主な取組

(ア) カリキュラム作成

11年間の学びを意識するために、各教科における系統性の把握ばかりでなく、道徳教育全体計画の共有や総合的な学習の時間の系統性の把握、学年ごとの活動内容等、教育課程全体を把握する作業が必要になります。つまり、児童生徒指導、防災教育、支援教育等、学校生活全般での共通理解を図る必要があるわけです。一度に全てはできませんので、課題を決めて広げていこうと考えています。北小学校において算数研究を推進していることから、平成29年度は算数・数学を切り口として取り組みを進めています。

(イ) 合同研修

〔幼小中一貫教育合同研修会〕

幼小中の全職員対象の研修会を年2回実施しています。このように職員間の交流を深めることで、普段から、ちょっとした会話ができるようにになりました。建物だけでなく、人との距離も着実に縮まっています。北の子どもたちをみんな育てるといった一体感が生まれています。



〔防災訓練（幼小中合同引き取り訓練）〕

市内の基準日（平成29年度は6月6日（火））に合わせ、中学校区ごと幼小中同日に引き取り訓練を行っています。

(ウ) 授業研修

授業力の向上をめざし、授業研究を共有化していく取り組みを行っています。平成28年度・平成29年度は幼小中一貫して「数量・図形等の感覚遊び、算数、数学」の保育・授業研究を行いました。平成29年度は、10月に小学校算数科研究授業に、11月に中学校公開授業研究会において数学・社会・体育・英語の各授業に全員が参加し、学び合いの様子を参観し、子どもたちの学び方について協議を行いました。講師の先生も同じ方をお願いし、新学習指導要領に向けて幼小中で一つになって取り組んでいくポイントなどをご講演いただきました。幼稚園で行う公開保育にも小中の先生が積極的に参加しています。このように合同研修会だけでなく、校種をこえて保育授業研究会への参加も行って



います。

(エ) 乗り入れ授業

〔小中一貫教育研究臨時指導員〕

小学校から中学校への円滑な接続や学力の定着を図る新たな手法と効果を検証するため、小学校での教科担当制について研究的に導入を図るなど、学力向上に向けた指導体制及び指導法の研究を行っています。北小学校では非常勤講師を配置し、理科の授業での教科担当制を実践しています。また、北小学校の5・6年生では、社会科において学期ごとに担任が入れ替わって授業を行っています。

〔乗り入れ授業として〕

毎年、3月に小学6年生が中学校見学を行い、授業体験をしています。部活動の体験も行い、中学校の雰囲気を味わってもらっています。その他、中学校職員が定期テストの期間を利用して、小学校の給食の時間に児童と会食



を行い、中学校の生活について質問を受けるなど先生の顔を覚えてもらえるように積極的に取り組んでいます。さらに、平成28年度は、秦野市子ども野外造形展に出品するための小学校3年生の図工の授業に、美術科の教員が指導を行いました。小学

校から気軽に声をかけてもらうことで、始まった事例です。今後、いろいろな教科・学年においてに乗り入れ授業が行われることを期待しています。

(オ) 児童・生徒の交流

幼小中一貫教育を教育課程の基礎に位置づけ、これまでも行ってきた取り組みや交流活動を幼小中一貫教育として価値づけをしていくことで、無理なく、当たり前としての幼小中一貫教育を進めています。

〔児童会・生徒会〕

子どもたちの方から当たり前のよう实施方式に実施している活動としてリーダー研修会があります。

北中学校生徒会が企画運営を行っています。この活動は、子どもたちがそれぞれの学校の課題を持ち寄り、自分たちの学校をよりよいものにしようと進めています。いじめの問題などテーマごとに子ども達の視点で話し合いが進みます。



〔家庭・地域〕

保護者へは随時、働きかけをしています。運動会等の主な行事の他、学校保健安全委員会やPTA主催講演会等の案内をしています。また、中学校では「行こう学校の日（毎月15日は、いこー学校の日）」を設定し、小学生の保護者も見学・参観しています。さらに平成29年度の10月には、小学校6年生の学年懇談会に中学校の教育相談コーディネータと生徒指導担当へ出席依頼が小学校PTAよりあり、中

学校での生活等、保護者としての質問等に答える形で参加しました。

児童会生徒会本部の子どもたちが中心となり、学校評価の結果等を踏まえながら、PTAや北の子どもを育む懇談会と協力し、めざす子ども像である「生活スタンダード」を作成しました。

小中の学校だよりや行事の案内等を、月1回、日頃からお世話になっている地域の方へ子どもたちが配布し、学校の様子を伝えています。そこから、地域からも行事等への参加要請やボランティア要請が届くようになってきています。



平成 29 年度は、地区の各児童館夏まつり、公民館まつり、福祉ふれあいまつり、青少年育成部会のクリスマス会へのボランティア派遣を行いました。

北小学校PTAが毎年主催している防災キャンプへの中学生ボランティアがあります。中学生リ

ーダーとして参加することで、小学生は中学生へのあこがれを持つようになります。地域からのボランティア参加者も大変多いです。さらに小学校のPTA収穫祭に中学校の吹奏楽部への参加依頼があり、生徒たちは母校での演奏に張り切って参加しました。

幼小中学校のPTAのつながりも強く、それぞれのPTA活動（バザー等）のお手伝いを行ったり、公民館で行われるPTA参加行事にボランティア参加したり、普段からの連携した取り組みが見られます。

エ 小学校教員が中学校にできること、 中学校教員が小学校にできること

〔小⇒中〕

お互いの授業参観は、ともにめざす子ども像をつくりあげていくために必要です。空き時間がない小学校の教員ができるだけ、中学校へ足を運ぶことは、中学校の指導に自分たちの指導を繋げるために必要です。しかし現実には、全ての教員が見に来ること年間1回の公開授業研究会以外ではできていません。



中学校への子どもたちの情報をやり取りするばかりでなく、この学年の児童は、どのようなことを学び、どのような活動を行っていたのか、生活指導や教科指導で大切にしてきたことはどのようなことなのかを引き継ぐ必要があります。さらに、不登校やいじめに関する情報は、しっかりと引き継いでいく必要があります、特に小学6年生の担任とのつながりは重要になります。

〔中⇒小〕

中学校の教員は専門教科の指導を通して、小学校での授業に積極的に関わりをもつことが大切だと考えます。特に、小学校での授業研究における指導案検討の段階から一緒に研究を進めていくことが重要です。さらに進路指導を含めたキャリア教育について、中学校の情報を伝えていくことが必要ではないかと思



います。小学校の指導や子どもの様子をきちんと把握しておく必要があるので、6年生の授業参観や担任との交流を進めるなど機会を見つけて児童把握を行っています。

また、中学校で実施している学校保健安全委員会の講演会やキャリア教育に関する講演会等の案内を小学校でも配布するなど入学前から中学校の理解を進める努力を進めています。

オ 成果と課題

幼小中の日課や年間計画の違いによる課題は大きく、現時点では、新たな行事や無理をする交流を取り入れるのではなく、9年間（11年間）の学校生活全般を見通した教育課程に見直していく作業を進めることで、小中一貫教育（幼小中一貫教育）の真のあり方が見えてくるように考えています。

今年度、市内全9中学校区において、児童・生徒・保護者・地域の方・教職員を対象に、幼小中一貫教育についてアンケートを実施しました。その中で、小中の滑らかな接続に関しては、中学生・保護者共に高く評価しており、児童生徒だけでなく保護者においても小中連携が滑らかな接続に効果があることを感じています。また、異年齢交流が子どもたちの豊かな育ちに役立っていると小学生や保護者は答えています。しかし、アンケート内の「国語や算数（数学）の勉強が好きだと思う。」という項目では、小学校から中学校に接続する中で、数値が下がっており、学習面での課題が残っています。小・中学校でのそれぞれの指導方法の良さやその違いについて理解し、一貫した系統的な教育を行っていく必要があると考えます。今後、定期的にアンケートを実施する等、成果と課題を継続に把握していく計画です。

算数・数学振り返りプリント「フリプリ」

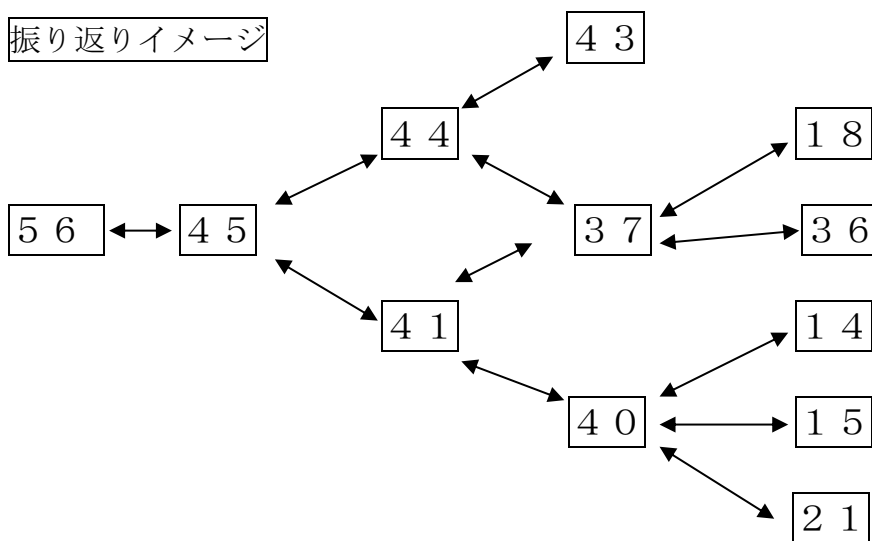
「フリプリ」とは振り返ることのできるプリントの愛称です。秦野市教育委員会教育研究所では、秦野市の小学校と中学校に勤める現職の教員を調査研究員として、算数・数学について小中学校の教育課程における連続性・系統性を研究すると共に、小中一貫を見通した補助教材作りの研究を進めてきました。

「見た目が良くても利用できないようなものは作成しても意味がない。現場にいる先生方が本当に利用できるようなものを」というコンセプトのもとに作成されました。

「フリプリ」の特徴

「フリプリ」は当初、小中学校における計算領域に限定して作成されました。その後、関数領域・図形領域「平面図形」編・図形領域「空間図形」編・資料の活用領域編と続きました。今回は、計算領域の紹介となります。各プリントは小学校では1単元ごとに、中学校では1時間の授業を振り返る時に利用できる内容と量になっています。右ページには模範解答が付けられているので、各自が各自のペースで取り組み、振り返ることができます。また、算数や数学は積み重ねの教科と言われており、以前の学習内容が理解されていないと取り組みも困難なため、各プリント右上（または計算のしかた・例題等囲み線の中）にどこへ戻って復習すればよいのかが示されています。この「フリプリ」は適宜、授業の中で振り返り・確認のために使用することを念頭に作られています。全てのプリントを番号ごとに用意し、児童・生徒がいつでも手にすることができるようにしておく、自分のペースで学習を進め、学習意欲をかき立てることができます。

振り返りイメージ



算数・数学振り返りプリント「フリプリ」計算領域一覧

小学1年生

| 番号 | 学習内容 | ふりかえり |
|----|-----------------|-------|
| 1 | 10までのたしざん | |
| 2 | 10までのひきざん | |
| 3 | 10よりおおきいたしざん | 1 |
| 4 | 10よりおおきひきざん | 2 |
| 5 | 3つのかずのたしざん・ひきざん | 1, 2 |
| 6 | たしざん | 3 |
| 7 | ひきざん | 1, 2 |
| 8 | なん十のたしざんとひきざん | 1, 2 |

小学4年生

| 番号 | 学習内容 | ふりかえり |
|----|----------------|------------|
| 25 | 大きな数 | 20 |
| 26 | わり算の筆算(1) | 18, 19 |
| 27 | わり算の筆算(2) | 26 |
| 28 | がい数を使った計算 | 17 |
| 29 | 整数の計算のまとめ | 14, 15 |
| 30 | 小数のしくみとたし算、ひき算 | 23 |
| 31 | 小数と整数のかけ算、わり算 | 21, 24, 26 |
| 32 | 分数の大きさとたし算、ひき算 | 22 |

小学2年生

| 番号 | 学習内容 | ふりかえり |
|----|------------------|--------|
| 9 | たし算のひっ算 | 6 |
| 10 | ひき算のひっ算 | 7 |
| 11 | たし算のひっ算パート2 | 9 |
| 12 | ひき算のひっ算パート2 | 10 |
| 13 | 大きい数のたし算とひき算のひっ算 | 11, 12 |
| 14 | かけ算① | |
| 15 | かけ算② | |

小学5年生

| 番号 | 学習内容 | ふりかえり |
|----|----------------|--------|
| 33 | 整数と小数 | 20 |
| 34 | 小数のかけ算 | 24 |
| 35 | 小数のわり算 | 26, 27 |
| 36 | 整数の性質 | 14, 15 |
| 37 | 分数の大きさとたし算、ひき算 | 18, 36 |
| 38 | わり算と分数 | |
| 39 | 分数と整数のかけ算、わり算 | |

小学3年生

| 番号 | 学習内容 | ふりかえり |
|----|-------------|--------|
| 16 | かけ算のきまり | 14, 15 |
| 17 | たし算とひき算 | 13 |
| 18 | わり算 | |
| 19 | あまりのあるわり算 | 18 |
| 20 | 10000より大きい数 | |
| 21 | かけ算の筆算(1) | 14, 15 |
| 22 | 分数 | 1, 2 |
| 23 | 小数 | 11, 12 |
| 24 | かけ算の筆算(2) | 21 |

小学6年生

| 番号 | 学習内容 | ふりかえり |
|----|--------------|------------|
| 40 | 分数のかけ算(約分なし) | 14, 15, 21 |
| 41 | 分数のかけ算(約分あり) | 37, 40 |
| 42 | 分数の計算 | 29, 37, 41 |
| 43 | 分数のわり算(約分なし) | |
| 44 | 分数のわり算(約分あり) | 37, 43 |
| 45 | 分数の計算 | 41, 44 |
| 46 | 帯分数のかけ算・わり算 | 32, 41, 44 |

中学1年生

| 番号 | 学習内容 | ふりかえり |
|----|--------------|--------------------------------|
| 47 | 加法 | |
| 48 | 加法 | 例1→23、例2→37 |
| 49 | 減法 | |
| 50 | 加法と減法の混じった計算 | 例1→47、49 |
| 51 | 加法と減法の混じった計算 | 例1→47、49 例2→51の例1 |
| 52 | 乗法 | 例1→14、15 例2→34、35、41、44 |
| 53 | 乗法 | |
| 54 | 乗法 | |
| 55 | 除法 | 例1→18、例2→43 |
| 56 | 除法 | 例3→45 |
| 57 | 四則の混じった計算 | 例1→29、例2→29 例3→29、例4→29 |
| 58 | 文字式(式の値) | 例1→57、例2→57、例3→57 |
| 59 | 1次式 | |
| 60 | 1次式の計算 | 例4→60の例3 |
| 61 | 1次式の計算 | 例1～例4→59の例3 |
| 62 | 1次式の計算 | 例1、2→59の例3、60の例3 例3→62の例1、2 |
| 63 | 等式の性質 | |
| 64 | 1次方程式の解き方 | 例1、2→63 |
| 65 | 1次方程式の解き方 | 例1→60の例3、64 例2→33、64 |
| 66 | 1次方程式の解き方 | 例1→64 |
| 67 | 比例式 | 例1→38、例2→63の例2 |

中学2年生

| 番号 | 学習内容 | ふりかえり |
|----|-----------|--|
| 68 | 式の加法・減法 | 例1→59の例3、例2→61の例1 |
| 69 | 式の加法・減法 | 例1→61の例2、例2→61の例4 |
| 70 | 式の乗法・除法 | 例1→60の例1、例2→54の例2 例3→60の例2、例4→55の例2 |
| 71 | 式の乗法・除法 | 例1→56の例2、例2→60の例3 例3→60の例4 |
| 72 | 式の乗法・除法 | 例1→62の例1、2、例2→62の例3 |
| 73 | 式の計算(式の値) | 例1→58の例1、例2→72の例1 例2→58の例1 |

| 番号 | 学習内容 | ふりかえり |
|----|-------------|--|
| 74 | 式の計算(等式の変形) | 例1→63の例1、2 |
| 75 | 連立方程式とその解 | |
| 76 | 連立方程式の解き方 | 例1→61の例2、4 例1→63の例1、2 |
| 77 | 連立方程式の解き方 | 例→61の例2、4 例→63の例1、2 |
| 78 | 連立方程式の解き方 | 例→74の例1、例→65の例1 |
| 79 | 連立方程式の解き方 | (1)→65の例1、(2)→65の例1 (3)→65の例2、(4)→65の例1 |

中学3年生

| 番号 | 学習内容 | ふりかえり |
|-----|-------------|--|
| 80 | 式の乗法・除法 | 例1→71の例2 例2→71例3 |
| 81 | 式の展開 | |
| 82 | 乗法公式 | 例→81 |
| 83 | 乗法公式 | 例→81 |
| 84 | 乗法公式 | 例1→81 例2→82、83、61の例3 |
| 85 | 素因数分解 | |
| 86 | 因数分解 | 例→71の例2 |
| 87 | 公式による因数分解 | |
| 88 | 公式による因数分解 | |
| 89 | 公式による因数分解 | 例→86 |
| 90 | 平方根の乗除 | 例1→14、15、例2→18 例3→90の例1 |
| 91 | 平方根の乗除 | 例1→85、例2→90の例2 |
| 92 | 平方根の乗除 | 例1→90の例1、2 |
| 93 | 平方根の乗除 | 例1→70の例1、91の例1 例2→70の例3 |
| 94 | 平方根の加減 | 例1→59の例3 例2→91の例1、94の例1 例3→92の例1、94の例1 |
| 95 | 平方根の加減 | 例1→71の例2 例2→83の例1、2 |
| 96 | 因数分解による解き方 | 例2→87、例3→86、88 |
| 97 | 因数分解による解き方 | 例1→84の例2、 96、例2→66の例2 |
| 98 | 平方根を利用した解き方 | 例2→98の例1 |
| 99 | 平方根を利用した解き方 | 例→88の例1、98の例2 |
| 100 | 解の公式 | |

(3) 1中3小分離型 箱根町

箱根中学校

湯本小学校・仙石原小学校・箱根の森小学校

(箱根幼稚園・湯本幼児学園・仙石原幼児学園・宮城野保育園)

ア 教育目標

(ア) 教育目標

【中学校の教育目標】

箱根の郷土を愛し、確かな学力を身につけ、健康で豊かな心を育み、地域に貢献できる生徒の育成

【3小学校共通教育目標】

郷土を愛し、学ぶ意欲を持ち、心豊かで、たくましく生きる児童の育成

【4園共通教育目標】

のびのびと心温かい箱根の子どもの育成

【箱根教育の合言葉】 箱根を愛し かしこく やさしく たくましく

(イ) 教育目標の背景（現状分析）

日本全国の少子高齢化の傾向と同様に当町においても、児童生徒数の減少が現れ始めていたため、学校統廃合を行い平成20年4月から町立小・中学校は「5小3中」から、小学校は湯本小学校、箱根の森小学校、仙石原小学校の3小学校に、中学校は箱根中学校の1校になりました。学校統廃合後、課題として挙げられたのは、基礎・基本の定着を図り、全体的な学力の向上をめざすこと、また、箱根を知り、箱根を語れる児童生徒を育成することでした。

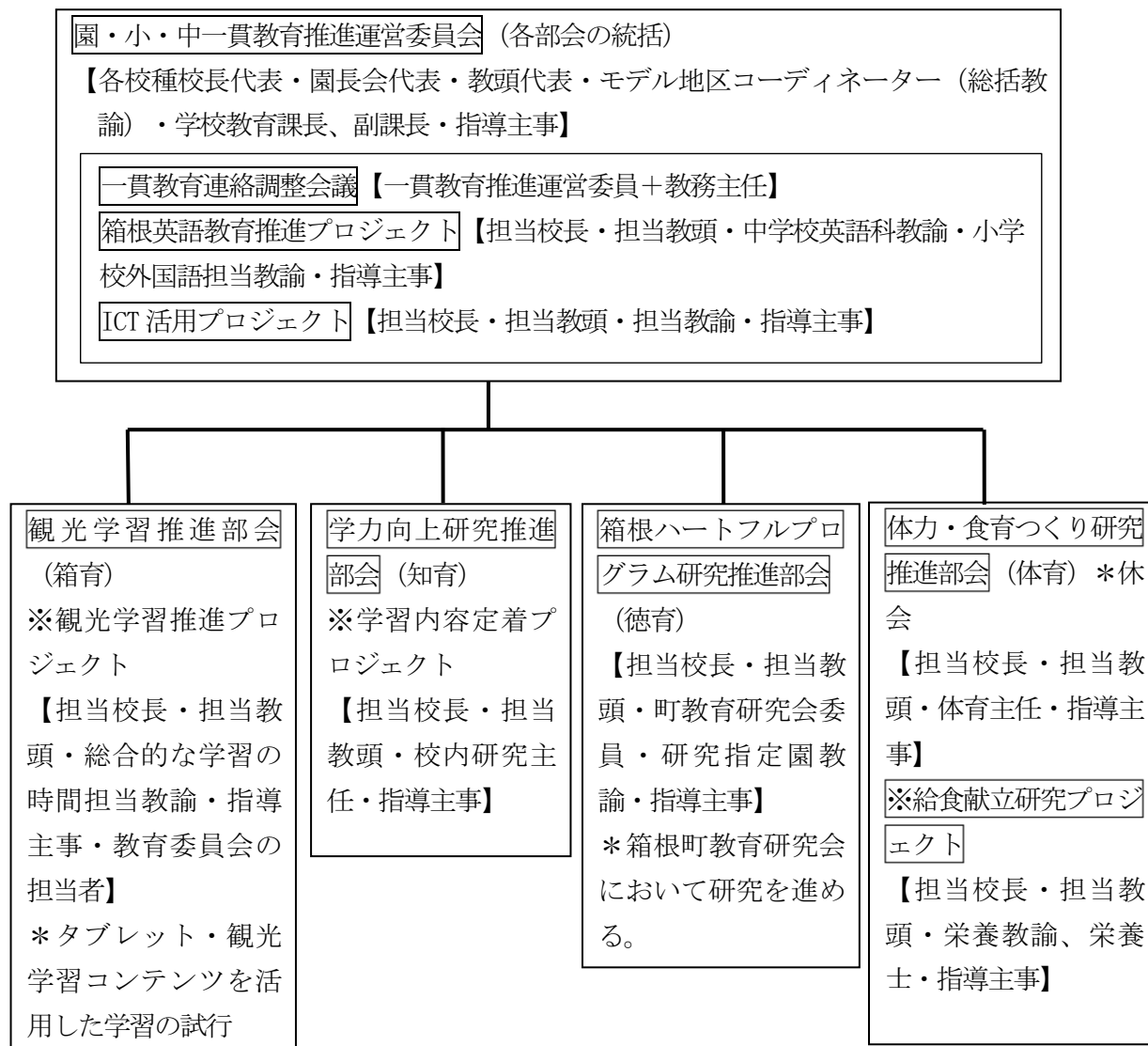
そこで、学校目標の共有化を図るとともに、「箱根教育①地域教育、②箱根ミニマム（基礎・基本の定着）、③情報教育、④国際理解教育、⑤心の教育」を中心に据えて3小1中の教育環境づくりを行ってきました。

「箱根教育」の効果が少しずつ現れ始め、文部科学省の「全国学力・学習状況調査」のA問題の平均正答率が向上し、読書時間も伸びています。また、子どもの地域への関心も高まり、8割以上の小学生と6割以上の中学生が地域行事に参加するようになってきました。

こうした流れを受けて、箱根町では児童の通学時間の問題、地域の活性化の問題を踏まえ、少子化に対応した活力ある学校づくりのための方策として、分離型園・小・中学校一貫教育に着手することにしました。

教育目標を統一し、箱根方式の分離型園・小・中学校一貫教育を実施することにより、地域教育や英語、観光学習などの学習を充実させ、地域の誇りを持ち、グローバルに活躍できる人材を育てていきたいと考えています。

イ 推進組織



※箱根一貫教育推進組織は、町校長・園長会諮問組織、町教育研究会、町教育委員会が一体となって推進されています。また、学校・園が主体となって一貫教育を推進できることに重点を置いて組織しています。

※箱根一貫教育推進組織で実施される会議等はテレビ会議システムを積極的に活用して開催しています。

※学校便りや箱根町広報誌「広報はこね」に各研究推進部会の取組についての記事を連載し、保護者、地域の方々へ情報を発信しています。

ウ 主な取組

(ア) カリキュラム作成

〔箱根ハートフルプログラム〕

「徳育」では、園・小・中学校の12年間の連続した学びの中で、子どもたちの社会性や他者との豊かな関係、集団との積極的な関わりを作り出すコミュニケーションの能力の育成を目指して「箱根ハートフルプログラム」を実施しています。幼児教育では、レッスンを通じて「何が大切なのか」「どうすればよいのか」を学びます。そして、その学びを日常生活で実践して、普段からできるようにすることで、「自立」と「共生」の力を養っています。小・中学校の「箱根ハートフルプログラム」は、子どもが社会性を学んだり、豊かな心を育んだりする体験活動（アクティビティ）を、各学年6時間行い、学んだことを日常化・定着化させていきます。（資料1）

箱根ハートフル
プログラム

園の実践：（パペットを使ってハートフルプログラム）



2年：インパルス（拍手の順送り）& みんなで輪くぐり



〔観光学習〕

英語・外国語活動（小学校）

箱根町は国際観光地であることから、小学校1年生から国際理解教育に力を入れてきました。

| ALTによる外国語活動・国際理解に関する学習 | | |
|------------------------|------|--------|
| 学年 | 時間 | |
| 第1・2学年 | 15時間 | 英語活動 |
| 第3・4学年 | 18時間 | 国際理解教育 |
| 第5・6学年 | 30時間 | 外国語活動 |



中学生が海外からの観光客にインタビュー

異学年交流ワールドカフェ英会話（中学校）

中学校の英語では、Can-Doリストの設定による指導と評価の改善を進めてきました。さらに、年間2回「異学年交流ワールドカフェ英会話」を実施しました。1学年から3学年の生徒の3人グループでテーマに沿って英語で会話をします。3回メンバーを変えながら会話をしました。



ワールドカフェ英会話の様子

総合的な学習の時間

「観光」に視点を当て、総合的な学習の時間では、ねらいと全体計画の見直しを行ってきました。（資料2）観光学習の実践を観光学習推進部会において共有しました。また、社会科副読本を中心にタブレットで活用できる「観光学習コンテンツ」の作成を進めています。

これらの学習をとおして、未来の観光をリードする人材を育成していきたいと考えています。

(イ) 合同研修

〔幼保小中合同研修会〕

平成27年度は、3つの小学校を会場にして「箱根ハートフルプログラム」の授業公開、研究協議を行いました。中学校の教員は3つのグループに分かれて、園の保育教諭等はそれぞれの小学校区へ参加しました。

平成28年度は、各小学校区の町立幼児学園（認定こども園）、保育園を会場に「箱根ハートフルプログラム」について公開保育、研究協議を行いました。本研修会をとおして、各園が「箱根ハートフルプログラム」を実施する上で参考にしている「ピースフルスクールプログラム」について共通に理解を深め、「箱根ハートフルプログラム」は12年間の連続した「心を育む」箱根独自のプログラムであることを確認することができました。

〔箱根ハートフルプログラム研修（園・小・中学校部会）〕

平成 28 年度は、小・中学校の教員を対象に、夏季休業中に湯本小学校を会場に、箱根ハートフルプログラム研修を行いました。川崎市総合教育センターからお迎えした講師並びに町教育支援室教諭が研修を進めていき



ました。実際に体験しながら、プログラムのねらいや指導のポイントについて学びました。

平成 29 年度は、御茶ノ水女子大学附属小学校から講師をお迎えし、幼稚園、幼児学園、保育園の保育教諭等を対象に、箱根ハートフルプログラム研修を行いました。「サークル対話から広がる『ことば』の学び」をテーマに講話をいただき、グループ協議を行いました。

(ウ) 授業研修

〔研究授業参観・研究協議への参加〕

学力向上研究推進部会において、研究主任が各校の年間の校内研究授業計画を提出し、3小1中の研究授業・研究協議の日程を集約したものが各学校へ配付されます。それをもとに所属校以外の学校の研究授業・研究協議に出席します。「見通し」と「振り返り」、「授業のユニバーサルデザイン化」といった共通の視点をもとに、授業改善、指導力向上を図ってきました。幼保の先生方が小学校の校内研究授業に参加したり、公開保育研究に小中の教職員が参加したりして、広がりが見られるようになってきました。

(エ) 乗り入れ授業

〔兼務発令による乗り入れ授業〕

兼務発令がなされた箱根中学校の2名の教員（音楽科）が、毎月3回ほど小学校の5・6年生の音楽の授業を行っています。これにより専門的な指導が受けられます。

音楽科の教員の小学校での授業日のスケジュール

<指導例>

| | 1校時 | 2校時 | 3校時 | 4校時 | 給食 | 午後 |
|------|-------|-------|--------|-------|--------|----|
| A 教諭 | 5年生指導 | 6年生指導 | | 5年生指導 | 中学校へ戻る | |
| B 教諭 | 6年生指導 | 5年生指導 | 中学校へ戻る | | | |

また平成 28 年度には、10月に中学校の文化活動発表会の合唱コンクールに3小学校の6年生が参加し、合同で合唱を行いました。それに向けて、中学校の音楽科の教員が1小学校に出向き、2小学校の6年生はTV会議システムを利用して指導を受けました。

また、平成 29 年度からは兼務発令がなされた箱根の森小学校の教諭が、箱根中学校で指導を行っています。中学1年の数学の授業では、T2として数学科の教諭と連携し、指

導を行ったり、単元のまとめ・習熟では少人数指導を行ったりしています。授業後には数学科の教諭と振り返りを行うとともに、共に教材研究も行います。

兼務発令された小学校教員の中学校での授業日のスケジュール

<指導例>

| | 朝の時間 | ホームルーム | 1校時 | 2校時 | 3校時 | 4校時 |
|-----|------------|-----------|--------|--------|------------------------------|--------|
| C教諭 | 数学科の教諭と打合せ | 提出物の確認・評価 | 1年1組指導 | 1年2組指導 | 数学科教諭と授業の振り返り、教材研究 小学校へ戻る | 小学校の授業 |

小・中学校どちらでも「見通し」と「振り返り」を大切にした授業を一貫して展開することで、児童は中学校へ進学しても安心して学習に取り組むことができ、中1ギャップの緩和につながっています。

〔出前授業：幼稚園・幼児学園・保育園〕

箱根中学校の英語科の教員が町立幼児学園・保育園に出向いて出前授業を行いました。園児は英語の歌を教えてもらい満足そうでした。

〔出前授業：小学校〕

学期に1回以上、箱根中学校から社会科・理科・音楽科・美術科・体育科・技術家庭科などの教員が小学校6年生を対象に、各小学校で出前授業を行っています。また、箱根中学校へ入学する全ての児童に一貫した指導を提供し、中1ギャップの緩和を図ることを意図として、町立の小学校だけではなく、町内の箱根恵明学園小学校の児童へも出前授業を行っています。

(オ) 児童・生徒の交流 (小小の交流も含める)

〔各種行事交流〕

- 月初めのあいさつ運動 (園小中)
- 特別支援学級合同キャンプ (小中)
- 文化活動発表会合唱コンクール (小中)
- 中学校一日体験入学時における6年生と中学生で行う構成的グループエンカウンター (小中)
- 箱根町体育大会 (小小)
- スクールバスの活用 (園小中)
- 卒業記念会・箱根スイーツ体験 (小小)
- 学校芸術鑑賞会 (小小)
- 箱根町児童生徒巡回作品展 (小中)
- 園と小学校の共同開催による子ども作品展 (園小)



○神奈川県フィルハーモニー管弦楽団演奏会 IN 箱根中学校（小中）＜平成 28 年度＞

○箱根町の施設の屋内プールを使用した水遊び

・水泳の授業（園小中）

○箱根町議会見学（小小）

○一貫教育共通給食献立の実施（小中）



(カ) 教職員等の交流

〔箱根一貫教育懇談会〕

平成 28 年度、園・小・中学校の教職員が一堂に会して、「顔の見える、12 年間の切れ目のない指導・支援」や「12 年間をとおして、育てたい子ども像」について情報交換を行いました。懇談会後には、教育委員会職員も入り、教職員ソフトバレーボール大会も開催され、親睦もさらに深まりました。

〔その他各種行事交流〕

○3 小学校合同家庭教育講座の開催（PTA・社会教育）

○箱根中学校生徒指導担当教諭が 3 小学校を訪問し、児童生徒指導における一貫した指導の重要性について話し合う。（小中）

エ 小学校教員が中学校にできること、中学校教員が小学校にできること

〔小⇒中〕

積極的に中学校の研究授業を参観することによって、生徒は中学校へ入学しても小学校の先生方が見守り、応援してくれていることを知り、励みとなっているようです。また、学習規律と指導過程の共有化を図ることにもつながっています。

〔中⇒小〕

兼務発令がなされた音楽科の教員が小学校で指導を行っています。また、箱根の森小学校の教員が中学校 1 年の数学の指導を行っています。さらに、学期に 1 回以上、箱根中学校から社会科・理科・音楽科・美術科・体育科・技術家庭科などの教員が小学校 6 年生を対象に、各小学校で出前授業を行っています。授業だけでなく、児童生徒指導担当者会をとおして生徒指導のノウハウを知ることによって、児童生徒指導の在り方についても共通理解を図っています。

次期学習指導要領から小学校 5・6 年生に英語が教科となることを受けて、中学校の英語科の教員が中心となり、小学校の教員とともに英語プロジェクト研究を立ち上げ、箱根町で育てたい児童・生徒像について共有化を図り、指導法等について研究を行っています。さらに、3 名の英語科の教員がそれぞれ 3 つの小学校で 5 時間、出前授業を行い、「おもてなし English」やフォニックス学習の一貫した導入を進めてきました。

オ 成果と課題

平成 27 年度末に児童生徒・教職員・保護者・地域（学校評議員）を対象に実施したアンケートでは、「箱根教育の合言葉」の共通理解について、教職員の多くは「理解が図られている」と回答しており、肯定的でした。一方、児童生徒の意識がまだまだ低いことが分かりました。しかし、平成 28 年度のアンケートでは、児童の意識に大きな改善が見られました。教職員が、箱根分離型園小中一貫教育の視点を持って指導を行っていることや、児童生徒にとっては、一貫教育に関わる学習や行事を通して学びが深まっていることが改善の要因であると考えられます。児童生徒も教職員、保護者共に小中学生の交流や行事については効果があると感じていることが分かりました。教職員や保護者は一貫教育を行うことによって、子どもたちが良好な人間関係を築いていることを実感しているようでした。乗り入れ授業や出前授業、相互に授業参観や研究協議への参加をとおして、自校の指導に役立っているとの回答が多くあり、一貫教育による学力向上・授業力改善に効果があることが窺えました。児童生徒にとって交流や指導といった関わりをとおして一貫教育の効果を実感する姿が見えてきました。特に、「中学校に進学する際の不安が緩和された（いわゆる「中 1 ギャップ」）」と回答した児童・生徒が増加し、効果が見られるようになってきました。

その他、箱根方式分離型一貫教育を推進することによって見えてきた成果としては、教職員にとって、児童生徒理解が深まり、学習のルールや指導について共有化が図られたことです。学力向上研究推進部会では「見通し」と「振り返り」を重点課題として研究することや体力づくり研究推進部会では、縄跳びを共通アイテムとして取り組んでいます。また、児童生徒からの「一貫給食献立を実施したらどうか」といったアイデアを取り上げ実現しています。このように、ボトムアップで教職員や児童生徒のアイデアや考えをもとに主体性を持って推進していくことが重要であると考えます。

課題として挙げられていた旅費については、園小中一貫教育マネジメントから、一貫教育に関わる旅費として支出できるように改善を図りました。また、児童生徒、保護者・地域への啓発に関する課題については、学校便りや町広報紙「広報はこね」、各推進部会における「箱根一貫教育だより」等を通して周知を図ることができるようになってきました。今後も、機会をとらえて情報を発信していく必要があると考えます。

課題としては、時間割や後補充など、小学校教員と中学校教員の授業ネットワーク構築に係る課題が見えました。また、教職員に異動がある中で、「箱根分離型小中一貫教育」に対する理念や重要性について共通理解を図っていくこと、さらに、教職員への意識改革と高揚を図っていくことが重要であることが分かりました。

学校間の距離と時間が箱根式分離型一貫教育の大きな問題ですが、中一ギャップの緩和など大きな成果が得られるので、今後も地域の学校を守り、活力あるものにしていくために今後も一貫教育を推進していきます。

資料

【箱根版分離型一貫教育】9年（12年）を通したカリキュラム
箱根ハートフルプログラム

資料1

| | 学年 | レッスン名 |
|-------------------------|--|---|
| 幼稚園・幼児学園・保育園 | 3歳児 | 「わたしたちのクラスにようこそ」(L1) 「幸せ(ハッピー)」(L23) 「悲しい」(L24) 「こわがる」(L25) 「怒り」(L26) |
| | 4歳児 | 「ほめ言葉とけなし言葉」(L6) 「いやな時はやめてと言おう」(L8) 「落ち着こう」(L12) 「仲直りをしよう」(L13) 「わたしの気持ち」(L27) |
| | 5歳児 | 「上手にお願いしよう」(L20) 「あなたは どう思う？」(L21) 「助け合おう」(L29) 「対立した時の助け方」(L32) 「私の得意なこと」(L33) |
| | *年間 20～25 レッスンを行う。上記は各年齢別に共通して取り扱うレッスン | |
| 小学校 ※年間、六つのプログラムを行う。 | 1年生 | 1 みんなであそぼう [友だち] 2 これからよろしく [友だち] 3 こおりおに [友だち] 4 いーれて [友だち] 5 たいせつなわたし [自分] 6 グループシンボルの絵を作ろう [仲間] |
| | 2年生 | 7 質問じゃんけん [友だち] 8 インパルス&みんなで輪くぐり [友だち] 9 相手が元気になる聴き方 [友だち] 10 四つの窓 [友だち] 11 ふくは何色 [友だち] 12 ふわふわ言葉とチクチク言葉 [自分] |
| | 3年生 | 13 アウチでよろしく・あわせアドジャン [友だち] 14 ロボットコントロール [友だち] 15 共同絵画 [仲間] 16 友だちビンゴ [友だち] 17 ねえ、どっちがいい? [仲間] 18 人間コピー [仲間] |
| | 4年生 | 19 ジェスチャー伝言 [友だち] 20 ムシムシ教室の席替え [仲間] 21 ☆星いくつ [自分] 22 シャッターチャンス [仲間] 23 ちがいのちがいの [仲間] 24 言葉のおくりもの [仲間] |
| | 5年生 | 25 パイプライン [友だち] 26 ちゃんと聞いてよ [自分] 27 自然教室 SOS! [仲間] 28 森の仲間たち (地図づくり) [仲間] 29 あなたが大切だと思う権利はどれ? [仲間] 30 Xさんからの手紙 [仲間] |
| | 6年生 | 31 上手な断り方を学ぼう [自分] 32 色鉛筆をわすれちゃった★気球編 [仲間] 34 私のジャガイモ [自分] 35 友だちになるなら誰? [仲間] 33 自己発見 (自己アピール書を書く) |
| 中学校 | 1年生 | <1学期> : 37 「探偵ゲーム」 42 「なぞの宝島」 <2学期> : 39 「先生ばかり住んでいるマンション」 38 「人間知恩の輪」 41 「ぼくらはジョーズ」 <3学期> : 40 「クラスにとって大切な人は、どんな人？」 |
| | 2年生 | <1学期> : 43 「間違い探し」 44 「エリザベスのお部屋を決めて」 <2学期> : 47 「自分探し (エコグラム)」 45 「わたしの四面鏡」 <3学期> : 48 「SOS砂漠でサバイバル」 未定 |
| | 3年生 | <1学期> : 42 「なぞの宝島」 51 「続・なぞの宝島」 <2学期> : 50 「私の発達曲線 I・II」 54 「避難誘導に協力しよう」 <3学期> : 54 「私は面接官」 58 「人生の羅針盤」 |

観光学習（総合的な学習の時間）

資料2

| | 湯本小学校 | 仙石原小学校 | 箱根の森小学校 |
|--------|---|--|--|
| 小3 | <p>箱根のよい所・すごい所</p> <p>湯本の自然・発見</p> <ul style="list-style-type: none"> 箱根の昆虫や植物を調査 <p>箱根探検ツアー</p> <ul style="list-style-type: none"> 箱根フリーパスを使って全山一周探検 <p>箱根の魅力発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> 新3年生に伝えよう | <p>とびだせ仙石探検隊</p> <ul style="list-style-type: none"> ホテルや旅館の仕事 お店の仕事 美術館の仕事 など <p>大好き、私たちの箱根</p> <ul style="list-style-type: none"> 箱根ジオミュージアム ススキ野原 ・ 芦ノ湖 大涌谷 など | <p>箱根の魅力を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 温泉、寄木細工、美術館、乗り物などを調べる <p>箱根の魅力を伝えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイドマップやリーフレットにまとめる。 調べたことを富士屋ホテルの外国人研修生に伝える |
| 小4 | <p>みんなが知らない箱根</p> <ul style="list-style-type: none"> 旅館、ホテル、美術館 交通機関 自然、動植物、等 <p>箱根の観光を開いた人々</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮ノ下富士屋ホテルと山口仙之介 | <p>ふれあいの輪を広げよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の方とふれ合おう <p>高齢者・障がいのある人たち</p> <p>とともに生きる</p> <ul style="list-style-type: none"> お年寄りや障害のある方とふれ合おう | <p>点字で学び点字でコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光施設の福祉を学ぶ <p>富士屋ホテルで食事のマナーを学ぼう</p> <ul style="list-style-type: none"> 本格的なテーブルマナーの作法意味を知る |
| 小5 | <p>おもてなしメニューを作ろう</p> <p>[合同的学習]</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の食材や湯本周辺を中心としたお店について調べる。 | <p>箱根の環境について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 箱根ビジターセンター 箱根の自然調べ | <p>芦ノ湖について調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 芦ノ湖の観光 マスの栽培漁業 観光客を増やすためのアイデア |
| 小6 | <ul style="list-style-type: none"> 地元の食材を生かしたメニュー作り挑戦する。 地元の食材を生かした主食やデザート作りについて発表する。 | <p>日光について調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 日光と箱根の共通点と相違点 <p>ふるさとから世界へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 箱根を訪れる外国人との交流 | <p>箱根について調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> わらじ作り 旧街道を歩く <p>箱根の未来を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光客にインタビュー活動 箱根の魅力を伝えるポスター、提案書を作成する |
| 中1 | <p>職場体験をとおして身近な地域や自分の生き方を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 働くこと、テーマについて考える ・ 職業調べ学習・体験先の職業調べ、アポイントメント ・ 箱根町職場体験 ・ 体験先にお礼状を書く ・ 発表 | | |
| 中2 | <p>鎌倉市での体験をとおして、箱根町についての理解をより深め、自分たちができることを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 鎌倉市の訪問先の職業調べ、アポイントメント ・ 鎌倉市職場訪問・体験先にお礼状を書く ・ プレゼンテーションソフトの活用 ・ 発表 | | |
| 中3 | <p>京都（修学旅行で訪問）での体験をとおして、箱根町について理解を深め、箱根の良さを発信しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都府でインタビュー体験（外国の方に） ・ 箱根町の観光地や駅で外国の方などにインタビュー ・ プレゼンテーションソフトの活用 ・ 文化活動発表会で発表 | | |
| 国際理解教育 | <ul style="list-style-type: none"> おもてなし英語について学ぶ ・ 異学年交流英会話活動（年間2回） | | |

(4) 1中1小分離型 真鶴町

真鶴中学校
まなづる小学校
(ひなづる幼稚園)

ア 教育目標

(ア) 教育目標 (全体、各学校)

(全体目標)

「教育は、人づくり 人づくりは、まちづくり。まちの未来づくり」

(学校目標：真鶴中学校)

「自他の生命を大切にし、確かな学力を身につけ、地域に貢献する生徒の育成」

(学校目標：まなづる小学校)

「自分を大切に 仲間や学校を大切に 町を大切に」

(イ) 教育目標の背景 (現状分析)

本町では、「第4次真鶴町総合計画」に基本政策として「一人一人を大切にした教育により、学び続け共に生きる人づくり、そして、心豊かな生活と文化のあふれるまちづくり」を掲げ、その実現をめざして、学校教育・社会教育を通して、子どもや町民が主人公の教育、一人一人を大切にした教育を基本方針としています。特に学校教育においては、幼・小・中の一貫した教育を通して「一人一人を大切にした教育、共に学び共に育つ教育を推進し、『生きる力』を育む」ことを基本方針として、幼児・児童・生徒一人一人の個性を大切にし、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育成し、人格の形成をめざしています。また、恵まれた自然や伝統ある歴史を生かしながら、真鶴の良さを生かし郷土真鶴に根ざした「ふるさと教育」を推進し、故郷に対する誇りや郷土を愛する心、まちづくりに貢献する姿勢を育むこともめざしています。

各学校においては町の基本方針を踏まえるとともに、児童・生徒の連続した成長の過程にあるそれぞれの発達段階を考慮しながら、町の全てを学びの対象として、そこに主体的に関わり、自分らしく心豊かに生きていく児童・生徒の育成を目標としたそれぞれの学校目標を策定しています。

イ 推進組織

(ア) 中学校区組織

〔幼小中合同推進委員会〕

【出席】各校教頭、幼稚園長、各校教務主任、各校研究主任、指導主事

【内容】研究計画の調整と具体的な連携について、活動状況についての情報交換等

(イ) 教育委員会組織

〔真鶴町校長会〕（月1回開催）

【出席】各学校長、幼稚園長、教育委員会事務局

【内容】小中一貫に係る情報交換、学校運営計画と運営組織モデルの検討等

〔真鶴町教頭会〕（月1回開催）

【出席】各校教頭、幼稚園長、教育委員会事務局

【内容】各園・学校の研究内容や実践の様子についての確認

研究に係る連携が必要となる内容についての共有と調整

研究組織の調整

ウ 主な取組

(ア) カリキュラム作成

〔ふるさと教育検討委員会〕（平成27年度～平成28年度）

真鶴町の人や文化、自然、産業、歴史を体験的に学び、深い郷土愛と町に貢献しようとする意識や態度を育むことをめざした、ふるさと教育の新たなカリキュラムを創造するための検討委員会で、平成28年度にカリキュラムを完成させました。

平成29年度は、昨年度に完成したカリキュラムを実践し、その成果や課題等については各学校において分析、まとめを行い、さらなる改善を図っています。

〔防災担当者会議〕（年2回開催）

【場所】真鶴町民センター

【出席】幼・保・小・中学校防災担当者、総務課防災係、教育委員会

【内容】・防災教育カリキュラムの作成と内容の確認

・実践についての検証と改善に向けた協議

・各園・学校の防災対策に係る取組の情報交換

〔ICT教育活用推進プロジェクト担当者研究会〕（平成28年度～）

教育活動におけるICT機器の活用を推進するため、活用事例の共有を図ることによって効果的な活用方法を検討し、さらには、今後の教育活動の指針となる推進計画の作成をめざします。

【場所】真鶴町民センター、まなづる小学校、真鶴中学校

【出席】小・中情報教育担当者、教務主任、教育委員会

【内容】・各校におけるICT機器の活用事例の報告

・プログラミング教育及びリテラシー教育等の実践

・今後の教育活動の展開や整備を示す推進計画の作成

(イ) 合同研修

町教育委員会主催の研修会は、基本的に幼稚園、小・中学校の教職員を対象としているため、校種を超えたグルーピングによる協議や演習によって、それぞれの教育観や児童・生徒の状況等について情報共有が行われています。

〔真鶴町児童生徒指導研修会〕＜平成29年7月31日（月）午後＞

【場所】真鶴町民センター 講堂

【参加】小学校（11名）中学校（18名）教育委員会（3名）

【内容】① 演習 「いじめ問題に係る児童・生徒への対応について」

② 講義 「子どもの理解とその指導～いじめ等児童生徒指導上の諸問題に対応できる教師として必要なこと～」

講師：大草 正信 氏

（臨床心理士 学校心理士 神奈川県SCスーパーバイザー）

〔真鶴町人権教育研修会〕＜平成29年8月18日（金）午後＞

【場所】真鶴町民センター 講堂・講義室

【参加】幼稚園（3名）小学校（16名）中学校（15名）

【内容】① 演習 「人の心を傷つけることばのいじめ

～『からかい』について考えよう～

② 講演 「いじめのない社会をめざして ～いじめを許さない文化をつくる～」

講師：松田 素行 氏 （文教大学健康教育学部 教授）

〔真鶴町幼小中合同研究会全体会〕＜平成29年8月25日（金）午後＞

※足柄下郡三町教育委員会合同研修事業「人材育成プロジェクト」との共催

【場所】真鶴町民センター 講堂

【参加】幼稚園（3名）小学校（15名）中学校（19名）教育委員会（3名）

【内容】講演 「次期学習指導要領へ向けて～『生きる力』の理念の具体化～」

講師：石田 有記 氏

（文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教育課程企画室 専門官）

〔真鶴町救急法研修会〕＜平成29年6月2日（金）午後＞

【場所】真鶴町立まなづる小学校

【参加】幼稚園（2名）小学校（17名）中学校（5名）

【内容】講演 「食物アレルギーの基礎知識と緊急時の対応について」

講師：湯河原町消防署員

実習 「緊急時のAEDの使用および、それに係る対応について」

(ウ) 授業研修

教員一人一人が、年間に一度は必ず異校種の授業研究会に参加し、同じ研究テーマにそった視点での教育活動の分析と、課題解決に向けた協議を行っています。

〔真鶴町立園・学校 保育・授業研究会〕

①まなづる小学校 授業研究会全体会

◇6月9日(金)開催 「国語科：物語を読んで紹介しよう『一つの花』」

・実施学年：4年

・参観：幼稚園教職員(3名) 中学校教職員(3名)

◇9月15日(金)開催 「生活単元学習：『できたこと発表会2017』をしよう」

・実施学年：ひまわり級(2クラス合同)

・講師：県立小田原養護学校地域連携部

・参観：中学校教職員(2名) ※特別支援級担当

◇9月25日(月)開催 「算数科：かたち(1)」

・実施学年：1年

・講師：早稲田大学総合科学学術院 小林 宏己 教授

・参観：幼稚園教職員(1名) 中学校教職員(6名)

◇10月30日(月)開催 「理科：じしゃくのふしぎをしらべよう」

・実施学年：3年

・参観：中学校教職員(3名)



◇11月7日(火)開催 「道徳：誠実な行動 (資料) 手品師」

・実施学年：6年

・参観：中学校教職員(3名)



◇11月17日（金）開催 「国語科：じんぶつと自分をくらべて読もう『わたしはおねえさん』」

・実施学年：2年

・参観：幼稚園教職員（1名）中学校教職員（1名）

◇11月29日（水）開催 「算数科：かけ算」

・実施学年：2年

・講師：早稲田大学総合科学学術院 小林 宏己 教授

・参観：幼稚園教職員（3名）中学校教職員（7名）



②真鶴中学校 公開授業研究会

◇11月8日（水）開催 「保健体育科：器械運動」

・実施学年：1年

・参観：幼稚園教職員（4名） 小学校教職員（14名）

(工) 乗り入れ授業

教育活動における小・中学校相互の教職員交流を促進することを目的に教職員の派遣に係る依頼文書の様式を共通なものに整え、各学校間における文書による派遣依頼と、担当教職員同士による事前打合せを経て、交流授業（乗り入れ授業等）を実施しています。

[平成29年度活動内容]

[中学校技術家庭科担当教諭による小学校6年生家庭科授業（ナップサックづくり等）でのTTによる指導] <平成29年10月26日（木）>

【内容】ナップサック制作中の児童に対する個別の指導と支援を行う。

[中学校国語科担当教諭による、小学校6年生を対象とした特別活動時間での指導]

<平成29年12月20日（水）>

【内容】エクササイズ「自分発見！」をとおして、児童が自らの長所に気付き、自己肯定感、自己有用感を高めることをねらいとしたエンカウンター的道徳の授業。

小・中をつなぐ児童理解の資料として、中学校とも情報を共有し、交流授業や入学後のアセスメント等にも活用を図る。

さらに次の内容での交流授業を実施します。

[中学校理科担当教諭による、小学校6年生を対象とした指導]

[中学校英語科担当教諭による小学校6年生を対象とした指導]

[小学校校長による中学1年生を対象とした書写の指導]

(オ) 児童・生徒の交流

〔幼小中連携 あいさつ運動〕（7月中3日間） ※児童会と生徒会との連携

〔小中連携 部活動体験〕（夏季休業中10日間）

エ 小学校教員が中学校にできること、中学校教員が小学校にできること

〔小⇒中〕

- ・小学校6年生児童について、中学校への情報共有（小中引継の場の設定）
- ・中学校1年生を対象とした小学校教職員による授業
- ・中学校部活動体験での引率
- ・授業参観と協議会の参加による協働での授業研究

〔中⇒小〕

- ・交流授業による小学生を対象とした指導
- ・授業参観と協議会の参加による協働での授業研究
- ・中1ギャップ解消に向けた、部活動体験やウインタースクール（中学校体験入学）の開催

オ 成果と課題

〔成果〕

ここまでの取組をとおして成果と考えている点は次のとおりです。

- 幼・小・中の教職員が、授業研究や研修での協議等をとおして互いの教育観や子どもたちの育ちの状況を伝え合うことにより、相互の教育文化を尊重するとともに、子どもたちの連続した成長過程と教育活動の変遷に繋がりを有することを実感することができました。また、それに伴い、「これまでの学び」と「これからの学び」を繋げる「現在の学び」のあり方について考えられるようになりました。
- ふるさと教育、防災教育といった視点で教育活動を見直すことで、子どもたちの成長に関わる学習の対象が学校という枠を超え、地域とともに子どもたち一人ひとりの「生きる力」を育むといった教育の充実に繋がっています。

〔課題〕

これからの教育活動でより重点的に取り組む必要がある事柄については次のとおりです。

- 児童・生徒数の減少に伴い学校が小規模化していくという課題がある中で、子どもたちが協働して学び合う学習を保障し、一人一人が課題意識をもって学び深める教育活動をより充実させていくために、校種を超えた授業研究の推進やICT機器の教育活動への効果的な活用の推進などを継続して取り組みます。
- 児童・生徒指導上の課題となる「いじめ問題」等について、人権教育の充実による、子どもたちが安心して学べる土壌づくりをさらに推進します。
- 児童・生徒による主体的な交流活動についての研究と推進を図ります。

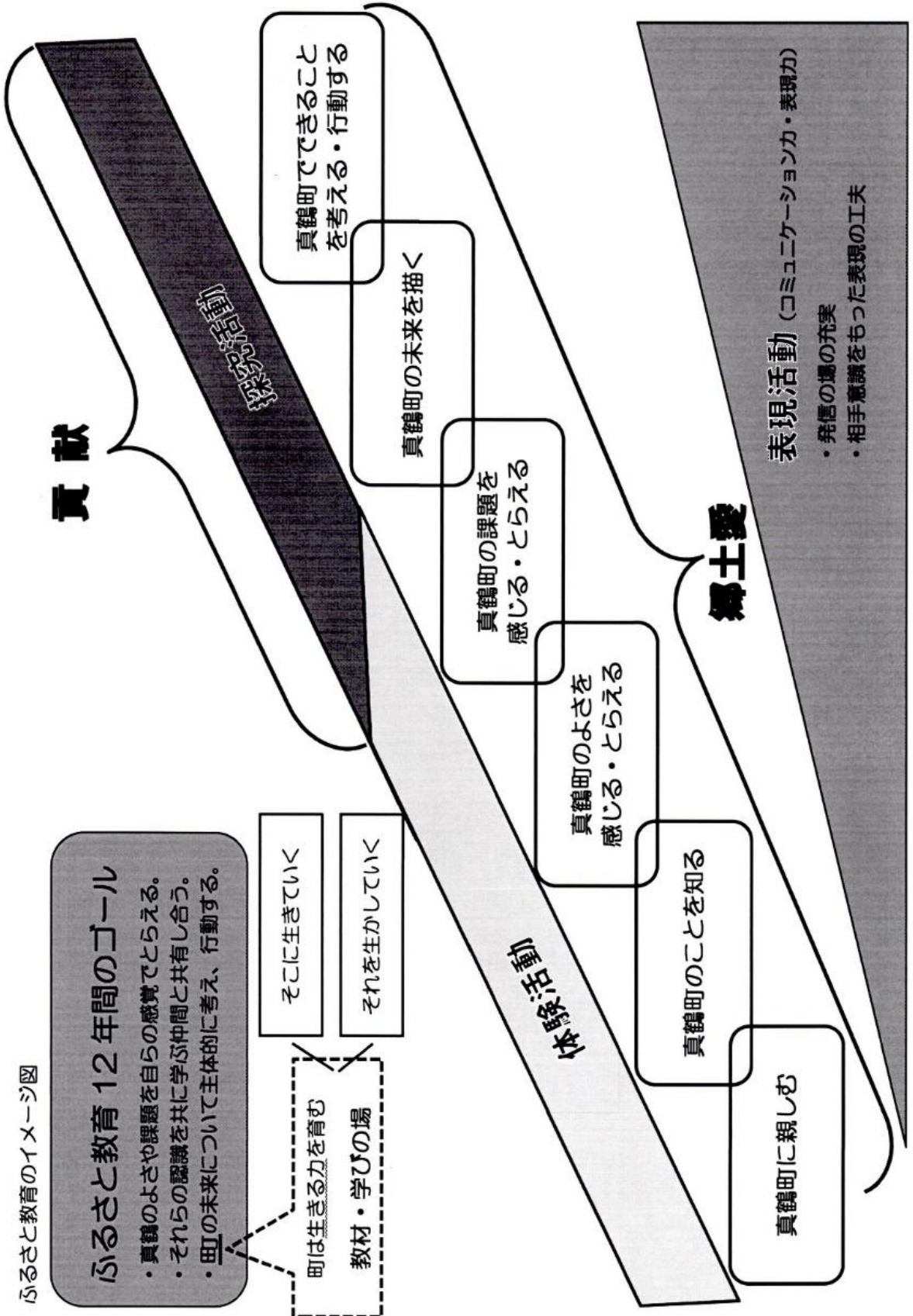
ふるさと教育のイメージ図

ふるさと教育 12 年間のゴール

- ・真鶴のよさや課題を自らの感覚でとらえる。
- ・それらの認識を共に学ぶ仲間と共有し合う。
- ・町の未来について主体的に考え、行動する。

町は生きる力を育む
教材・学びの場

そこに生きていく
それを生かしていく



貢献

探究活動

真鶴町でできることを考える・行動する

真鶴町の未来を描く

真鶴町の課題を感ずる・とらえる

真鶴町のよさを感ずる・とらえる

真鶴町のことを知る

真鶴町に親しむ

郷土愛

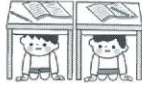
表現活動 (コミュニケーション力・表現力)

- ・発信の場の充実
- ・相手意識をもった表現の工夫

ふるさと教育活動内容一覧

| 領域 | 幼稚園 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|----------------|---|---|--|--|--|--|--|
| | | 低学年 | 中学年 | 高学年 | 1年 | 2年 | 3年 |
| 人・文化 | <p>○真鶴の丘公園鑑賞</p> <p>○通達員児童博物館見学</p> <p>○真鶴中学校学習活動発表会参加(テーマ:美しい町・真鶴)</p> <p>○幼稚園運動会(真鶴町について知り、真鶴町がわかる)</p> <p>○コーラスグループ(コールまなづる)との交流</p> <p>○おはなし会鑑賞(わっくわっく)</p> <p>○町立図書館の利用</p> <p>○交通安全教室</p> | <p>◎町に親しみ</p> <p>・1年「あんなに大きなきかた」(通達員博物館)</p> <p>・2年「まちたんけん」(地蔵寺)</p> | <p>◎町の人の生活を知ろう</p> <p>・3年「お母さんけん」(商店街など)</p> | <p>◎町の政治を知ろう</p> <p>・6年「私たちが暮らしと政治」(町の政治や「真鶴町議会」を知る)</p> | <p>◎「夏休みの課題」</p> <p>・中川一級美術展覧会「夏休み」制作</p> <p>・真鶴町コンクール出品(作品発表)</p> | <p>◎「水彫り」</p> <p>・真鶴町コンクール「水彫り」制作</p> | <p>◎「色鉛字デザイン」</p> <p>・真鶴町コンクール「色鉛字」制作</p> |
| | <p>◎「あんなに大きなきかた」(通達員博物館)</p> <p>◎「まちたんけん」(地蔵寺)</p> | <p>◎郷土理解をつくる</p> <p>・3年「あんなに大きなきかた」(商店街など)</p> <p>・4年「まちたんけん」(地蔵寺)</p> | <p>◎郷土理解をつくる</p> <p>・3年「あんなに大きなきかた」(商店街など)</p> <p>・4年「まちたんけん」(地蔵寺)</p> | <p>◎町と広く関わりあう(福祉・政治等)</p> <p>・5年「真鶴町議会」</p> <p>・6年「私たちが暮らしと政治」</p> | <p>◎「日本の民謡」</p> <p>・真鶴町民謡コンクール「日本の民謡」制作</p> | <p>◎「日本の民謡」</p> <p>・真鶴町民謡コンクール「日本の民謡」制作</p> | <p>◎「日本の民謡」</p> <p>・真鶴町民謡コンクール「日本の民謡」制作</p> |
| 産業・歴史(※キヤリア教育) | <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> | <p>◎郷土理解をつくる</p> <p>・3年「あんなに大きなきかた」(商店街など)</p> <p>・4年「まちたんけん」(地蔵寺)</p> | <p>◎郷土理解をつくる</p> <p>・3年「あんなに大きなきかた」(商店街など)</p> <p>・4年「まちたんけん」(地蔵寺)</p> | <p>◎郷土理解をつくる</p> <p>・3年「あんなに大きなきかた」(商店街など)</p> <p>・4年「まちたんけん」(地蔵寺)</p> | <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> | <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> | <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> |
| | <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> | <p>◎郷土理解をつくる</p> <p>・3年「あんなに大きなきかた」(商店街など)</p> <p>・4年「まちたんけん」(地蔵寺)</p> | <p>◎郷土理解をつくる</p> <p>・3年「あんなに大きなきかた」(商店街など)</p> <p>・4年「まちたんけん」(地蔵寺)</p> | <p>◎郷土理解をつくる</p> <p>・3年「あんなに大きなきかた」(商店街など)</p> <p>・4年「まちたんけん」(地蔵寺)</p> | <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> | <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> | <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> |
| 自然(海・生き物等) | <p>○「海」お林檎公園</p> <p>○「海」お林檎公園</p> <p>○「海」お林檎公園</p> | <p>◎町の自然を知ろう</p> <p>・1年「あんなに大きなきかた」(通達員博物館)</p> <p>・2年「まちたんけん」(地蔵寺)</p> | <p>◎町の自然を知ろう</p> <p>・3年「あんなに大きなきかた」(商店街など)</p> <p>・4年「まちたんけん」(地蔵寺)</p> | <p>◎町の自然を知ろう</p> <p>・5年「あんなに大きなきかた」(商店街など)</p> <p>・6年「まちたんけん」(地蔵寺)</p> | <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> | <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> | <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> |
| | <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> | <p>◎町の自然を知ろう</p> <p>・3年「あんなに大きなきかた」(商店街など)</p> <p>・4年「まちたんけん」(地蔵寺)</p> | <p>◎町の自然を知ろう</p> <p>・5年「あんなに大きなきかた」(商店街など)</p> <p>・6年「まちたんけん」(地蔵寺)</p> | <p>◎町の自然を知ろう</p> <p>・7年「あんなに大きなきかた」(商店街など)</p> <p>・8年「まちたんけん」(地蔵寺)</p> | <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> | <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> | <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> <p>◎「ふるさと」の歴史を学ぶ</p> |

真鶴町防災（地震・津波）教育カリキュラム
～幼保小中 12 年間で培う、子どもたちの防災対応力～



石田保育園
貴船愛児園
真鶴町立ひなづる幼稚園
真鶴町立まなづる小学校
真鶴町立真鶴中学校

1 防災教育の基本姿勢

私たちが防災教育に取り組む際に意識しておきたいことが、日常における子どもたちの生活の延長が災害時の行動にもつながっていくということです。話をよく聞く、身の回りのことを自律的に行う、周りの人とコミュニケーションをとって協力し合うなどの、普段の生活習慣をきちんと身に付けることが、災害時に自分たちの身を守る力につながるのだということを忘れてはなりません。

また、緊急時においては主体的に身の安全を守り必要な行動をとることが求められます。そのためには日常の学習活動の中で、子どもたちの主体性を育んでおくことが不可欠であり、その意識をもって授業づくりを行わなければなりません。

本カリキュラムを根拠から支えるものは、普段の生活指導であり、主体性を育む授業です。その支えの上にこそ、本カリキュラムが最大の成果を発揮するのです。私たちはこの認識を共有したうえで、防災教育に取り組みしていきます。

2 このカリキュラムのねらい

防災教育の基本姿勢を踏まえ、幼保小中が連携して真鶴の子どもたちに地震・津波に対応する力を身に付けさせ、地震・津波による人的被害を極力小さくすることを目的に、この防災教育カリキュラムを作成しました。地震・津波に対応する力とは概ね次のとおりです。

- ① 地震や津波の発生メカニズム、防災の観点からの地域の特性など、基礎的事項を理解すること
- ② 地震・津波の危険性を認識し、日常の備えを行うと共に、状況に応じて的確な判断をし、自らの安全を確保すること
- ③ 地震・津波発生時及び避難後に、誰かで他の人々の役に立つ行動をすること

3 各学年の目標

| | |
|-----------------|--|
| 幼稚園・保育園 3～4歳 | <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園にいるとき地震が起きたらどうすればよいかを知る。 地震の後に津波という現象が起きることを知る。 地震の後は高に近づかず、高い所に逃げなければならないことを知る。 |
| 幼稚園・保育園 5歳 | <ul style="list-style-type: none"> 家にいるとき地震が起きたらどうすればよいかを知る。 地震や津波の力やこおるについて知る。 津波が予想されるときどこに逃げたらよいか考え、家庭でも話し合う。 |
| 小学校1～2年 | <ul style="list-style-type: none"> 教室や学校内で地震が発生した時の、自分の安全を守る方法を知る。 津波が予想される時の行動の仕方を知り、安全に避難できるようにする。 |
| 小学校3～4年 | <ul style="list-style-type: none"> 家や通学路にいるときに地震が起きたらどうすればよいかを知る。 過去の大地震や被害などを調べ、学校や町の防災への備えは何が必要なのかを考える。 |
| 小学校5～6年 | <ul style="list-style-type: none"> 通学路や地域の様子に関心を持ち、危険箇所を考えられるようにする。 郷土歴史、東石東中の例を知り、日頃の備え（訓練）の大切さを考える。 |
| 中学校1年 | <ul style="list-style-type: none"> 地震や津波の発生メカニズム、過去の日本の地震・津波被害などについて理解する。 今後予想される地震や津波について理解する。 真鶴を巨大地震や巨大津波が襲ったらどうなるかを予想し、そのときとるべき行動について考える。 |
| 中学校2年 | <ul style="list-style-type: none"> 避難行動時に中学生としてできる行動を考え、地域の防災訓練に積極的に参加する。 |
| 中学校3年 | <ul style="list-style-type: none"> 避難所において中学生としてできる行動を考え、地域の防災訓練に積極的に参加する。 地震、津波、火山噴火による被害とその対策について知り、適切に行動できるようにする。 |

4 各学年の授業計画

※ 幼稚園の地震対応については未記入です。

※ 小学校の0.5時間は避難訓練の事前指導等で扱う予定です。

| 学年 | 時数 | 領域 | 授業内容 | 教材等 |
|-----------------|----|----|--|--|
| 幼稚園 3歳 4歳 | 1 | | <p>津波って何？</p> <ul style="list-style-type: none"> 津波があることや津波のこおさについて知る とるべき行動（高に近づかず、高いところへ逃げる） | 絵本「にげる！津波だ！」他 |
| 幼稚園 5歳 | 1 | | <p>津波の力、どこへ逃げよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 津波は高い波になって押し寄せる 津波は建物を破壊する力を持っている 自宅や幼稚園にいた場合、どこへ逃げればよいか 家庭でも話し合う | 命を守る 防災紙芝居「つなみ」「じしん」他 |
| 小1 | 1 | 生活 | <ul style="list-style-type: none"> ○地震の揺動について、意見を出し合う。 ○地震と自分の安全（教室）について知る。 ・大地震がきたら、教室ではどのようなことが起こるかを考える。 ・視学館（幼稚園・保育園）の学習を思い出し、教室内の避難の仕方を練習する。 ・小学校の避難訓練について知り、「おかしも」を守ることを知る。 ○津波について知る ・地震がきたら、津波が起きるかもしれないということを知る。 ・津波防災三原則を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>（津波防災三原則）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 想定をみだりにしない ② より高く、より高いところへ避難する ③ 率先して避難する </div> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・絵本「はちまんのぼうし」 ・ワークシート |

| | | | | |
|----|---|----|--|--|
| 小2 | 1 | 学活 | <p>○地震の経験について意見を話し合う。</p> <p>○地震と自分の安全（廊下や階段）について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動場、廊下、階段などで大地震が起きた時、どうするかを話し合う。 ・津波の大切さを知り、先生の指示を聞き取る大切さを知る。 ・避難訓練について話し合い、「おかしも」を守ることを考える。 <p>○地震と津波について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の時の学習を思い出し、津波防災三原則を確認する。 ・津波の動画などを見て、安全を守ることに考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・絵本「じしんの文ほら、こんなときどうするの？」 ・ワークシート |
| 小3 | 1 | 学活 | <p>○動画（家庭内地震映像）から地震について考える。</p> <p>○地震と自分の安全（家）について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家で地震が起きた時の危険を知り、どう身を守るかについて話し合う。 <p>○家族の地震への備えについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生の時の学習を思い出し、津波防災三原則を確認する。 ・音楽を想定した避難を考え、避難場所や避難経路などの家族との約束が必要なることを話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・動画① 地震時以外の様子 ・ワークシート ・動画「避難から広がる」 ・アニメーション部分 |
| 小4 | 3 | 学活 | <p>○動画（地震時の町の様子）から地震について考える。</p> <p>○過去の大地震と被害について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の大地震と真鶴小学校の被害を調べ、（写真） ・真鶴町津波ハザードマップから、将来の地震の被害について話し合い、津波防災三原則を確認する。 <p>○地震への備えについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の時の学習を思い出し、地震などの災害に備えた町の防災食糧について話し合い、学校にある防災食糧や非常時の備蓄を調べる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・動画② 地震時のまちの様子 ・真鶴町津波ハザードマップ ・ワークシート |

| | | | | |
|----|---|----|--|--|
| 小5 | 1 | 学活 | <p>○動画（津波の様子）から地震について考える。</p> <p>○地震と自分の安全（通学路）について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学途中で大地震が起きたら、通学路にどのような危険があるのかについて話し合う。 ・真鶴町津波ハザードマップで、家や避難場所への経路を確認する。 <p>○地震への備えについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路の危険箇所を確認しながら、通学路避難マップを作成する。また、広域避難場所を知り、通学路などから避難経路を記入する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・動画① 地震発生時 ・動画② 津波到達の様子 ・真鶴町津波ハザードマップ ・ワークシート |
| 小6 | 1 | 学活 | <p>○アニメーション動画から石巻の避難の例を知る。</p> <p>○居住区小と釜石東中の例から分けることを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から地震や津波に備えておくことの大切さ。 ・土曜生として行動することの大切さ。 <p>○避難訓練に真剣に参加することや、地震や津波に対する心構えを持つことの大切さを知る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・動画① 地震発生時 ・動画② 津波到達の様子 ・ワークシート ・動画「津波からにげる」(アニメーション部分) |
| 中1 | 1 | 学活 | <p>真鶴を巨大地震と巨大津波が襲ったら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の地震被害・津波被害について知る ・今後予想される地震・津波について理解する ・真鶴を巨大地震と巨大津波が襲ったらどうなるか ・最大震度、最大波高、最大遡上高、到達までの時間 ・津波防災三原則、家族との約束の再確認 | <p>スライド 動画 ワークシート</p> |
| | 2 | 理科 | <p>地震・津波発生メカニズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球の内部構造、マントル対流、プレート移動 ・プレート境界地帯の発生と津波 ・地震発生域と今後予想される地震と津波 | <p>スライド 動画 ワークシート</p> |
| 中2 | 1 | 学活 | <p>大地震・大津波、私たちにできること I</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波防災三原則、家族との約束の再確認 <p>地震・津波に際して中学生にできること（避難時）</p> <p>例：避難を呼びかけながら率先して避難する弱者（小学生やお年寄り）に手を貸す</p> <p>逃っている人に避難路を示すなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釜石東中の実例 | <p>スライド ワークシート</p> |

| | | | | |
|----|---|----|--|-------------------------------|
| 中3 | 1 | 学活 | <p>大地震・大津波、私たちにできること II</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波防災三原則、家族との約束の再確認 ・地震・津波に際して中学生にできること（避難後） ・避難所でのボランティア例 ・受付、水の運搬、炊き出し、支援物資の配布 ・お年寄りへの声かけ、乳幼児の世話など ・町や地域の防災訓練に積極的に参加する姿勢を持つ | <p>スライド ワークシート</p> |
| | 2 | 理科 | <p>自然災害と人間の生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震、津波、火山噴火による過去の災害 ・予想される災害とその対策 | <p>スライド 動画 ワークシート</p> |

資料

津波アンケート結果
http://www.bousai.go.jp/shin/tsunami/hann/pdf/20121221_chousai_1.pdf

津波防災マニュアル
<http://www.jma-net.go.jp/shiga/ks/kanouki/home.htm>

真鶴町津波ハザードマップ
http://www.town-mamanaru.com/h25_hazadmap

釜石の奇跡
http://www.kahoku.co.jp/ape/ape_sys107120111126_01.htm?style=print

(5) 2中3小分離型 二宮町

二宮中学校・二宮西中学校
二宮小学校・一色小学校・山西小学校

ア 教育目標

(ア) 教育目標（全体目標、学校目標）

（全体目標）

- ・人間尊重の精神に基づいた思いやりの心を持った児童・生徒の育成
- ・学校・家庭・地域との協力による、社会に奉仕できる児童・生徒の育成
- ・知識や技能、自ら学ぶ意欲を身につけた、自己実現を目指す児童・生徒の育成
- ・心身の健康の保持に必要な知識・習慣を身につけた児童・生徒の育成

（学校目標：二宮小学校）

- ・心豊かに 生き生きと活動し 自ら考え共に学び合う子どもの育成

（学校目標：一色小学校）

- ・心豊かでたくましく、自ら考え共に学ぶ子

（学校目標：山西小学校）

- ・「豊かな心」「健やかな体」「確かな学力」を育み、自らの力で未来をたくましく生き抜く子の育成

（学校目標：二宮中学校）

- ・自ら気づき、考え、判断して行動できる知・徳・体の調和のとれた生徒の育成
(1) 確かな学力（知） (2) 豊かな心（徳） (3) 健やかな体（体）

（学校目標：二宮西中学校）

- ・自主自律の心を持った生徒の育成
・学び続ける人 ・自他を大切にする人 ・粘り強く取り組む人

(イ) 教育目標の背景

社会が急速に変化する今日、将来を担う子どもたちには、今まで以上に他と協調しながら自ら考え生涯を切り拓いていく生きる力が求められています。このような背景の中、当町では、「二宮町教育大綱」を柱に、「町民一人ひとりの「まちづくりの力」、「地域の力」を活かした「共に学び共に育つ教育」を推進するため、児童生徒の生きる力を育むとともに、それを取り巻く教育環境の整備、生涯にわたる学習への支援などに取り組んでいます。

特に、将来に向けた教育環境づくりについては、新教育課程の実施や、今後予想される様々な変革に対応できる学校をめざし、「地域とともにある学校」として早い時期に一定の方向性を示すために、検討、準備を本格化させることが必要です。

児童・生徒の「生きる力」の育成、すべての児童生徒が安心して学べる教育環境の整備、

将来に向けた特色ある学校づくりの推進等を今年度の重点施策として、自ら学び自己実現をめざす児童・生徒の育成に努めています。

イ 推進組織

(ア) 中学校区組織

各中学校区で、「小中交流会」として、相互の授業参観や情報交換等を行っています。また、3月には、小学校6年生が進学先の中学校を訪問し、中学校生活について話を聞くとともに、部活動の体験を行うことも、「小中交流会」の取組として実施しています。

(イ) 教育委員会組織

〔二宮町小中一貫教育校導入検討会〕（平成29年度）

各小・中学校長と教育委員会事務局で組織し、今後の二宮町立小中学校における義務教育9年間を通じた教育課程を編成し、系統性を持った教育を行うために適した学校配置等小中一貫教育の導入について検討しました。また、児童数・生徒数の減少に伴う小・中学校の再編成について検討しました。（年間5回実施）

〔二宮町小中一貫教育校推進研究会〕（平成30年度）

二宮町立小中学校における小中一貫教育を行うために適した学校配置等について、保護者代表、地域住民代表、町立学校長代表、学識経験者をメンバーとして、研究・協議しました。（年間4回実施）

〔小中一貫カリキュラムワーキンググループ〕

町内の小・中学校全教員が、10教科等のワーキンググループのいずれかに所属し、教育課程の編成について専門的な研究・協議を行い、9年間を見通した小中一貫カリキュラムの作成に向けて取り組んでいます。各教科等のワーキンググループは、それぞれ小・中学校の教員10人前後で構成され、各ワーキンググループには代表者を置き、代表者会で各教科等の進捗状況等の確認を行います。

各教科等のワーキンググループ構成人数（平成30年度）

| | 国語 | 社会生活 | 算数数学 | 理科生活 | 音楽 | 図画工作美術 | 体育保健体育 | 家庭技術・家庭 | 外国語活動 外国語 | 道徳 |
|-----|-----|------|------|------|----|--------|--------|---------|--------------|----|
| 小学校 | 7人 | 7人 | 7人 | 7人 | 5人 | 7人 | 5人 | 5人 | 5人 | 6人 |
| 中学校 | 5人 | 5人 | 7人 | 5人 | 2人 | 2人 | 5人 | 4人 | 6人 | 2人 |
| 合計 | 12人 | 12人 | 14人 | 12人 | 7人 | 9人 | 10人 | 9人 | 11人 | 8人 |

(ウ) コーディネーター

小中一貫教育英語科指導研究員が、小中一貫カリキュラムワーキンググループのスーパーバイザーとしての役割を果たすとともに、小中一貫教育を進めるために、外国語活動・

外国語科を重点化を図る教科等と位置づけ、校長会との連携や先進地区の情報収集等を行ってきました。

ウ 主な取組

(ア) カリキュラム作成

小中一貫カリキュラムワーキンググループ代表者会と小中一貫カリキュラムワーキンググループミーティング(全教員対象)を実施し、小中学校での児童・生徒の学習への取り組み状況や指導の現状、目指す子ども像、育てたい力等について協議したり、異校種間の授業公開・参観等を行ったりすることを通して、相互理解を深めながら、9年間を見通したカリキュラム作りを進めています。

(イ) 合同研修

〔小中一貫教育研修会〕

小中一貫教育について理解を深め、共通理解を図るため、夏季休業中に、二宮町立小・中学校の全教職員を対象に研修を行っています。平成29年度は、神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課の指導主事を講師に、「小中一貫教育の課題と成果」について講演いただき、その後、教科等ごとのワーキンググループに分かれて、会議を行いました。

平成30年度は、東京大学教授の藤江康彦氏を講師に、「生きる力を育てる9年間を見通した質の高い授業づくり」について講演いただき、その後、教科等ごとにワーキンググループミーティングを行いました。

〔小学校外国語活動研修会〕

小学校における英語教育の教科化を見据え、小学校教員と中学校英語科教員が、その効果的な連携のあり方について研修しています。

小学校外国語活動のねらいや効果的な指導法について共有を図るため、4月に全小学校教員及び中学校英語科教員を対象に、東京学芸大学教授の粕谷恭子氏による講演会を行いました。また、各小学校を会場として、講師によるモデル授業及び講演を実施しました(講師は、平成29年度は粕谷恭子氏、平成30年度は中部学院大学学事顧問の久埜百合氏)。さらに、小中一貫教育英語科指導研究員を講師として、各小学校で放課後や夏季休業中に研修会を実施しました(平成29年度5回、平成30年度6回)。各小学校会場の研修にも、中学校英語科教員に参加を促し、小中のつながりを意識した授業改善を進めています。

〔他校の校内研究会への参加〕

各校の学校研究における講師招聘の校内研究会の予定を集約し、互いに学び合う機会として、他校の校内研究会への参加を呼びかけています。各校の学校研究の成果や課題等を共有し、自校の研究の充実に生かしています。

(ウ) 授業研修

〔外国語活動・英語教育担当者会、中学校英語教育研修会〕

小学校教員と中学校英語科教員が連携して、小学校外国語活動の効果的な指導法についての知識・理解を深めるとともに、実践的な指導力向上を図ることを目的に、小学校外国語活動の授業を小学校教員と中学校英語科教員が参観し、協議を行っています。

また、小学校との連携をふまえ、小・中学校における英語教育について理解を深め、中学校英語科教員の授業力向上を図るため、東京家政大学教授の太田洋氏を講師に、各中学校を会場にして授業研究及び協議を行っています。この研修では、中学校英語科全教員が、年間の目標を定め、それに向けて講師からの助言を受けながら、授業実践を行っています。

(エ) 乗り入れ指導

〔重点化を図る教科等における取組〕

二宮町では、小中一貫教育を導入するにあたり、外国語活動・外国語科を「重点化を図る教科等」として設定し、取組を進めています。二宮中学校への加配措置を受け、英語科教員を「小中一貫教育英語科指導研究員」として、基本的には月曜日は中学校勤務、その他の曜日には町内の3小学校において、外国語活動の授業に関わり、ALTの訪問とあわせて、小学校における英語教育の専門的な指導の充実と児童の学習意欲の向上を図りました。

また、学級担任の授業力向上を目指し、授業形態は、小中一貫教育英語科指導研究員が中心となって行う授業を学級担任やALTが参観する場合や学級担任が中心となって行う授業を小中一貫教育英語科指導研究員がサポートする場合など、移行措置を含む新学習指導要領の実施に備えた取組を進めてきました。授業の前には必ず打合せを行い、授業づくりから授業内でのサポート、振り返り等を通して、学級担任の不安を軽減し、外国語活動の授業を行う上での自信につなげることができました。

さらに、年間を通じて放課後や夏季休業中に、各小学校の全教員対象に、新学習指導要領の実施に向けて、外国語活動や外国語科のねらいや授業の進め方等について、校内研修を実施しました。(平成30年度は各校で年間6回実施。)

各小学校への訪問は出張扱いとし、訪問日には、9年間を見通したカリキュラム作成のため、第5・6学年だけでなく、他学年のALT訪問時の授業も可能な限り参観しました。また、各校の朝の会や他教科の授業も参観したり、行事等にも積極的に参加したりして、小学校の教育活動や児童理解に努め、9年間を見通した指導に生かしました。

<小中一貫教育英語科指導研究員の訪問予定(平成30年度)>

| | 第5学年 | 第6学年 | 訪問日 |
|-------|------|------|-----------|
| 二宮小学校 | 3クラス | 3クラス | 水曜日・金曜日 |
| 一色小学校 | 2クラス | 1クラス | 火曜日・(金曜日) |
| 山西小学校 | 2クラス | 2クラス | 木曜日・(月曜日) |

〔山西小学校と二宮西中学校での取組〕

小学校教員と中学校教員がお互いに顔の見える関係になり、指導方法や課題等を共有することを目的に、平成 29 年度に小中一貫教育臨時指導員の配置を受け、山西小学校から二宮西中学校への乗り入れ指導を行いました。小学校のほぼ全教員が空き時間等を工夫して、計画的に中学校を訪問し、授業参観やTT、話し合い等を実施しました。また、小学校での各教科等の指導内容により、専門的な指導が望まれる場合は、中学校教員と話し合い、効果的な指導技術等について助言を受けることができました。

(オ) 児童・生徒の交流

〔小中交流会〕

各中学校区で、「小中交流会(児童向け中学校説明会)」を3月に小学校6年生を対象に実施し、生徒会本部役員から中学校生活について説明を受けたり、部活動見学及び体験をしたりするなど、小学生と中学生の交流を深め、小学校から中学校への接続を円滑にする取組となっています。

〔土曜参観の案内〕

各中学校が土曜参観を実施する際に、そのお知らせを学区の小学校を通じて6年生に配布し、参観を呼びかけています。6年生やその保護者が中学校の授業の様子を知るよい機会となっています。

〔中郡リーダーズ研修会〕

生徒会本部役員が他校の生徒との交流を通じ、リーダーとしての資質の向上を図ることを目的として、各校の生徒会での取組の情報交換や生徒会運営の悩みについてのディスカッション等を行っています。これは二宮町の中学校2校と大磯町の中学校2校の4校合同で、夏季休業中に実施し、自校や町内にとどまらず、広い視野をもって生徒会活動の改善のため取り組んでいます。

〔特別支援学級交流会〕

町内の小・中学校特別支援学級に在籍する児童・生徒が一同に会し、仲間とふれあうことの楽しさを味わい、人間関係を育てることを目的に、小中合同で体育的・音楽的な活動を行う「小・中学校特別支援学級交流会」を実施しています。また、小学校から中学校への滑らかな進学のため、町立中学校特別支援学級に進学する児童(小学校6年生)が、中学校の特別支援学級を体験し、中学校入学のイメージを持てるように、「中学校進学に伴う小・中学校特別支援学級交流会」を実施しています。進学先の中学校特別支援学級の生徒と交流したり、校内見学をしたりすることにより、小学校から中学校への進学時の過度な段差をなくし、安心して進学することができるための活動となっています。

エ 小学校教員が中学校にできること、中学校教員が小学校にできること

[小⇒中]

学級担任がほぼ全ての教科等を受け持つ小学校ならではの児童理解や学習規律、学習内容等、中学校へ進学する児童がどのような小学校生活を送ってきたのかについて、中学校教員へ積極的に伝えることが大切です。特に、中学校進学前の児童の様子についての情報共有は、小中の接続をより円滑なものとするために、とても重要な取組となっています。

また、小学校から中学校への乗り入れ指導は、進学した後も小学校の先生が見守ってくれているという安心感を生徒が得ることができるとともに、中学校進学後の生徒の姿や中学校における学習規律・学習内容等を知ることにより、6年間を見通した学習内容等の系統性を理解し、小学校での指導に生かすことができます。

[中⇒小]

中学校から小学校への乗り入れ指導は、中学校教員の教科専門性を生かし、小学校高学年の学習内容に対応するとともに、小中の学習内容の系統性を理解し合い、小学校での教材研究や授業改善について、両者で検討・協議をする機会となっています。また、小学校卒業後の生徒の様子について、小学校教員に積極的に伝えることで、6年間を見通した指導のあり方等について情報を共有し、それぞれの指導に生かすことができます。

また、小学校6年生を対象に授業公開や部活動体験等を行うことで、児童は中学校生活に対するあこがれや中学校進学への意欲を抱く等、円滑な接続に役立っています。

オ 成果と課題

[小中一貫カリキュラムワーキンググループの活動を通して]

小学校と中学校の教員が顔を合わせる機会が増加し、これまでにない小・中学校教員の交流があり、相互理解の良い機会となりました。新学習指導要領解説の抜粋資料作成の過程で、これまで意識されていなかった縦のつながりについて理解を深め、小学校・中学校それぞれの具体的な学習内容や児童・生徒のつまずきについて情報共有できたことは大きな成果だと感じています。また、全教員が異校種の授業を参観することで、異校種の授業の様子等を知るとともに、自校の授業を振り返り、小中のつながりを意識した授業づくりを進めるための良い機会となりました。

一方で、全教員で組織しているワーキンググループの開催日の設定や全教職員の意識を高める工夫などは今後の課題です。

[乗り入れ指導等を通して]

小中一貫教育英語科指導研究員の活動は、小学校の外国語活動・外国語科の実施に向けて、今後の方向性を確認することができ、学級担任の授業に対する不安軽減や授業力の向上に大いに役立ちました。平成30年度には、各校における研修の回数も増やし、授業実践

とともに、指導内容や目指すべき方向性等について繰り返し確認したことで、年度当初と年度末に行ったアンケートでは、学級担任の不安が軽減され、外国語活動(外国語)の授業を行うことを楽しみに感じている教員が増えている傾向が見て取れました。

また、町内の全小学校に関わっているため、学習内容や指導方法がそろった状態で、各中学校につなげることができ、小中の接続をより効果的に図ることができました。

小学校教員の乗り入れ指導については、児童たちの卒業後の環境や成長を知るだけでなく、中学校の指導方法等について理解し、小学校での指導に生かす良い機会となりました。

しかし、乗り入れ指導を可能にする時間と人の確保や教員の移動に係る時間や手段等の工夫が今後の課題です。